

# 令和6年度 海津特別支援学校 学校支援訪問及び研究会の様子

本校では、令和4年度から研究主題として『自ら考えて動くことができる子を育むための指導・支援の在り方～一人一人が「できた」を実感できる授業づくり～』を掲げて主体的な姿を引き出すために、全校研究として取り組んできました。

研究仮説として、『多角的な実態把握から得意や課題が見えてくる。そこから明確な目標設定、指導・支援の手立てを考えることで意欲的な姿を引き出せるのではないか。「できた」を積み重ねることで主体性が育まれていくのではないか。そして、主体的に関わる場を設定することで、仲間と協働する姿が育まれていくのではないか。』と考え、3年計画で検証してきました。

10月24日(木)学校支援訪問と合わせて指定授業や全学部の公開授業を行いました。今年度は、西濃地区の特別支援学校長にも来ていただき、数年ぶりに校外から来校者を招いての公開授業を実施することができました。

各学部特別支援教育課から一人ずつ指導主事の先生に来ていただき、小学部：生活単元学習、中学部・高等部：作業学習で研究授業を行いました。研究授業では、指導案だけでなく、全校研究で取り組んできた個々の実態把握や目標設定等も資料として配付し、児童生徒下校後に研究会も行いました。これまで取り組んできたことを研究協議事項として、職員間での討議や指導主事からの助言等をいただき、今後の授業について深め合える場となりました。

## 【指定授業の様子】

小学部では、授業開始前から姿勢を正して待ったり、遊びのルール確認の際にも積極的に意見を発表したりして、見通しをもって主体的に取り組む姿がありました。また、友達とペアで移動したり、一緒に活動や片付けをしたりする姿からは他者を意識した行動も見られました。

中学部では「にこにこ大作戦」を掲げ、お客や作る生徒自身が笑顔になれるように作業学習に取り組んできました。自分の好きな色にするのではなく、他者の意見を聞きながら仲間と配色を決定したり、一つ一つの作業工程を確認しながら丁寧に作業を進めたりする姿がありました。

高等部では、自らの思いと違うことを受け入れるのが難しい生徒や、失敗経験や苦手意識から消極的になる生徒に対しての手立てが設定されていました。行動に対して明確な即時評価を行うことで「できた」を実感できる場面設定が多くあり、生徒自身が主体的に学習を進める姿が定着していました。

研究会では、助言者の先生方から「自立活動の各項目から実態を見ていき、導き出された強みや課題を関連図化することで視覚的にも共有しやすく、指導・支援に対する手立てが深めやすい。」「一人一人の明確な目標や支援の手立てが設定されているので、一貫した指導・支援ができている。」等の児童生徒の主体的な姿の背景にある職員の働きかけについて、ご高評をいただきました。これまで全校研究で取り組んできた仮説に対しての検証が正しかったと実感できました。今後の課題として、主体的な姿からどのように発展させていくのかについても話題に上がりました。今後の授業では、少し先の成長した姿も考えながら日々の授業改善や学びを職員間で深めていきたいと考えています。

